

中村汀女 俳人、随筆家。星野立子・橋本多佳子・三橋鷹女と"女流四時代"、平明な作風で女性俳句の興隆に寄与。

なかむらていじょ

ビ7/国産化・1900 = 生。熊本県飽託郡江津村の村長斎藤平四郎の一人娘。母は熊本藩祐筆園田平八郎の次女亭。本名破魔。

日露戦争終・1905 = 5歳 :

伊藤博文暗殺1909 = 9歳 :

明治天皇没・1912 = 12歳 :

華道を山崎貞嗣に学び、凌雲斎花汀女の斎号をうける。俳号汀女はこの斎号にちなむ。

第一次大戦終1918 = 18歳 : ふと浮んだ"吾に返り見直す隅に寒菊紅し"の句を(九州日日新聞)に投稿、選者三浦八十公に認められ、句作を始める。

夙仇条約・1919 = 19歳 : 熊本県立第一高等女学校卒業。_(ホトトギス)に初入選、ついで長谷川かな女の(枯野)にも投稿。

大暴落・・・1920 = 20歳 : 大蔵省官吏中村重喜と_結婚し、一時句作を中断、

原敬首相暗殺1921 = 21歳 :

夫の任地に従い、東京・仙台・名古屋・大阪・横浜などに転居。この間に2男1女をもうける。

金融恐慌・・・1927 = 27歳 :

満州事変・・・1931 = 31歳 :

五一五事件・1932 = 32歳 : _句作を再開。高浜虚子に師事、虚子の実子の星野立子と並んで、特別に指導され、

帝人疑獄事件1934 = 34歳 : *(ホトトギス)同人となり、星野立子主宰(玉葉)に投稿。たちまち頭角を現し、立子と女流の双壁となる。

二二六事件・1936 = 36歳 :

日中戦争始・1937 = 37歳 :

_のち、立子・橋本多佳子・三橋鷹女とともに"女流四時代"を現出する。

大政翼賛会・1940 = 40歳 : *第一句集「春雪」には、虚子が特別な序を寄せている。

日米開戦・・・1941 = 41歳 :

敗戦・・・1945 = 45歳 :

新憲法施行・1947 = 47歳 : 句集「半生」。*(風花)を創刊し主宰。

極東裁判決・1948 = 48歳 : 句集「花影」、

_ラジオ・テレビで俳句指導を行い、平明な作風で婦人俳句を盛んにし、女流の第一人者として活躍する。

独立回復・・・1951 = 51歳 : 句集「都鳥」、

自衛隊発足・1954 = 54歳 :

55年体制始・1955 = 55歳 : 随筆「ふるさとの菓子」

国連加盟・・・1956 = 56歳 : 文化訪問団の副団長として中国を訪問。随筆「婦人歳時記」「をんなの四季」、

なべ底不況・1957 = 57歳 : 随筆「母のこころ」、

安保闘争・・・1960 = 60歳 : 「汀女句集」、

TV宇宙中継始1963 = 63歳 : 随筆「明日の花」、

霞ヶ関ビル・1968 = 68歳 : 句集「紅白梅」、

日中国交回復1972 = 72歳 : 勲四等宝冠章受章、

石油ショック1973 = 73歳 :

貿易摩擦始・1980 = 80歳 : _文化功労者となり、

・・・1981 = 81歳 :

・・・1984 = 84歳 : _芸術院賞を受賞して、

リクルート事件・1988 = 88歳 : _没した。勲二等瑞宝章が追贈された。

「この人どんな人」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、